

現場のプロに聞く

(ゴリラガードギャランティ株式会社 取締役専務経営戦略部長 夏原 潤)

広報委員会 橋本 岳社、内海 実



ゴリラガードギャランティ株式会社

取締役専務経営戦略部長 夏原 潤 さん

インタビュー場所

宮城県仙台市泉区野村字野村 95-2

ゴリラガードギャランティ株式会社

今回の“現場のプロに聞く”は、現場作業時には欠かせない警備員さんの会社「ゴリラガードギャランティ株式会社」に伺いました。

ユニークな取り組みで、警備業界では話題になっているそうです。取締役専務経営戦略部長の夏原 潤さんにお話を聞きました。

◆会社の沿革からお聞きしていきます。

創業は1991年で、仙台地区を中心に営業しています。従業員数は約100名、その内警備員は90名ほどで、交通誘導警備を主に行っています。

◆警備員さんと言えば、私ども地質調査業では、道路上での作業時に交通誘導をお願いすることが多いのですが、警備員さんの仕事はいろいろ種類があるんですね。

大きく交通誘導警備、施設警備、雑踏警備、運搬警備、身辺警備などがあります。主に目にする警備員は、交通誘導警備をしていることが多いのではないのでしょうか。施設警備は官公庁・ホテル・デパート・企業・学校などの施設に警備員を常駐させ安全管理を行うもので、雑踏警備は催事や店舗開店など人出が想定される場所に警備員を配備しイベント関係者、来訪・来店者の皆さんに安全を提供するものです。

◆いつも警備員さんはずっと立ちっぱなしでほんと大変ですよね。

確かに楽な仕事ではありませんね。道路上での警備であれば、常に危険と隣り合わせです。でも、私どもにご依頼いただいたからには安全をお約束したいですし、「良くやってくれて助かったよ」という言葉を励みにがんばっています。

◆警備するにあたり重視していることなどは何ですか？

まずは作業をされている皆様の安全を守ること、通過車両に不安を与えないようにすることですね。そのために、警備員の立ち振る舞いとといった教育訓練、保安機材の設置場

所の工夫や警備方法を含めてご相談いただければ、警備する側からその現場に最適な警備計画をご提案しお役に立てると思います。

◆ゴリラガードギャランティ(株)さんは、警備員さんの定着率が良いとお聞きしていますが、なにか秘訣があるのでしょうか？

現在、90名程度の警備員を抱えているのですが、せっかくご縁があって警備業に入ってきていただいたので、いかにモチベーションを維持して辞めさせないようにするかを考えています。

警備員というと、やはり3Kや5Kといわれる負のイメージを持たれることが多いですよ。私自身(夏原さん)も現場で警備をしていた時代に、親に仕事をしている姿を見られなくなかったという思いがあって、どうにか警備員のイメージを変えられないかなと考えました。

給与や休日といった待遇面の改善や、教育訓練を行うことで資格取得を含めて専門的なスキルを身に付けると同時に、警備員のイメージを変えようということで警備員たちのファッションショーを企画したりしました。これらの成果でしょうか、良い歯車が回り始まったのではないかと考えています。

◆そのファッションショーですが、どういった催しなのでしょう？

若者に「警備員はカッコいい」と認識してもらい、人材難の解消と働く人たちの自信につなげようと、業界で働く若者たちが出演するファッションショー「セキュリティ・ランウェイ」というもので、県警備業協会主催の「警備業セキュリティフェア」の中で、実際警備業で働く若者にモデルになってもらっているもので、2015年に全国初の試みとして始めて、以来、毎年行っているものです。

「警備員は少し近づきたいイメージを持たれていますが、ピシッと制服を着こなして一般の人に格好よいところを披露するとともに、自身でも“警備員であること”に強い誇りをもってほしい」と思って企画したものです。

◆待遇改善や教育訓練とともにそのような楽しそうなイベントも行ってモチベーションの向上に努めているのですね。最後に今後の目指すところを教えてくださいませんか？

良い仕事をする人の特徴は「仕事に誇りを持ち」「仕事を楽しんでいる」この2点だと思います。お客様の大切な現場に完璧な安全と安心を提供するためにも、良い警備員の育成、つまり社員の人生そのものを高められる会社になりたいと考えております。

夕方からの取材でしたが、現場から戻ってきた警備員さん達が明るく礼儀正しいのが印象的でした。

警備員の仕事内容をお聞きしに行ったつもりなのですが、警備業界のみならず我々にも通じる働き方改革のお話まで幅広くお聞かせいただきました。

お忙しいところ対応いただきこの場をお借りして御礼申し上げます。

